

令和4年度 指定管理業務 実績評価シート

作成年月日 令和5年6月29日

部課名 農林部農政課

施設名	岩木カントリーエレベーター
施設の設置目的	農業経営における省力及び低コスト生産を促進し、農業経営の改善を図る
所在地	弘前市大字一町田字富岡192番地
指定管理者名	つがる弘前農業協同組合
指定期間	平成31年4月1日から令和5年3月31日まで
1 事業計画の実施状況	<p>前年度と比較し稼働率の減少はあるものの、概ね事業計画に基づいた適正な管理運営をしていた。</p>
2 自主事業の実施状況	<p>自主事業なし</p>
3 市民サービス向上のための取組状況	<p>岩木カントリーエレベーター運営協議会を開催し、収穫期における利用期間等の意見交換を行い、荷受けスケジュール等の決定事項を利用者全員に周知するなど、効率的な荷受けと利便性の確保に務めていた。</p>
4 市民ニーズの把握の実施状況	<p>岩木カントリーエレベーター運営協議会での意見交換やアンケート用紙の設置により、利用者の意見・要望の把握に努めていた。</p>
5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など）	<p>令和4年産米 ※括弧内は令和3年産米の数値 利用者数 198名(215名) 乾籾換算重量 930.6t(991.9t) 稼働率 46.4%(49.5%)</p>
6 指定管理業務の収支状況	<p>入庫数量の減少により昨年度と比較し収入の減少はあるものの、概ね計画的で安定した予算執行に努めており、適正に行われていた。</p>

7 実地調査の結果

施設の運営・管理など適正に行われていた。

8 成果指標の達成度

成果指標である利用人数270人、稼働率70%に対し、実績は利用人数198人、稼働率46.4%と、達成率はそれぞれ73.3%、66.3%であった。

米需要の減少等による利用率の低下が続いているが、利用者の要望等に柔軟に対応し、利用拡大に努めていただく。

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	事業計画、業務報告を適切に行い、職員の研修を重ねることにより、法令順守・公平な対応を進める。	新規利用者の獲得及び利用者ニーズの把握を重点的に進める。
施設の管理	A	利用者の安全対策を第一に考え、老朽化による施設の更新を行い、効率的な荷受を安全に進める。	施設・設備の老朽化により、維持管理費が増える。
経理の状況	B	荷受伝票の整理、適切な精算業務を行い、在庫管理も徹底している。	経費を節約して、収支のバランスの改善を心がける。
団体の財務状況	B	健全な経営を行っている。	

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	協定書・基準書等に基づき、概ね適正に実施している。また、荷受期間中は、利用者のサービスが低下しないように増員していた。	市の施設としては令和4年度末を以って廃止し、令和5年度以降は民間に移管します。
施設の管理	B	利用者が施設を安心して利用できるよう適正に管理していた。	
経理の状況	B	収支状況、経費の削減等、概ね適正に実施していた。	
団体の財務状況	B	安定的な経理基盤を有していた。	

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する